

「佐倉市有機農業実施計画の策定について」に寄せられた意見と
市の考え方について

(1) 意見募集結果

意見募集期間	令和5年2月24日から 令和5年3月10日まで
意見募集結果	意見提出者数 8人
	意見数 41件
意見に対する対応	意見を参考に案を修正したもの 1件
	原案のとおりとしたもの 40件

(2) 意見の内容と市の対応

No.	提出された意見の内容	意見に対する考え方	案の修正の有無
1	P10 ・第3 有機農業推進の基本的な考え方 1 持続可能な農業の実現に向けた有機農業の推進 ①～④までありますが、学校給食を見据えるのであれば「公共調達」の拡充を入れべきだと思います。	「公共調達の拡充」につきましては、「③有機農産物の加工・流通販売・消費の促進」の中に考え方として含まれております。	無
2	P14 「佐倉市オーガニックビレッジ推進部会」に変更し、生産者等構成員を追加する →構成メンバーに消費者以外に「学校保護者」を追加することで、学校給食での有機食材の利用に対する理解が広がる。	個別具体的な内容であるため、貴重なご意見として、今後の有機農業推進施策への参考とさせていただきます。	無

3	<p>P15</p> <p>・2 役割【佐倉市】</p> <p>→農政課による学校給食と納品のコーディネートを担当する職員が必要です。</p> <p>「学校給食における納品のコーディネート」</p>	<p>個別具体的な内容であるため、貴重なご意見として、今後の有機農業推進施策への参考とさせていただきます。</p>	無
4	<p>P15</p> <p>・2 役割【佐倉市】</p> <p>農業者ネットワーク組織も任せっぱなしではなく、ネットワークごとに担当職員を付ける。</p>	<p>個別具体的な内容であるため、貴重なご意見として、今後の有機農業推進施策への参考とさせていただきます。</p>	無
5	<p>P21</p> <p>・3 有機農産物の加工・流通、販売、消費の促進</p> <p>→有機栽培の生産者に関する情報をHPを通じて情報発信するだけでなく、こうほう佐倉で月に1度は小さくてもいいので必ずどこかに記事を掲載するくらいでないと消費者の啓発はできないと思います。</p>	<p>情報発信につきましては、広報紙やホームページ等で周知に努めてまいります。</p>	無
6	<p>P24</p> <p>・第6 その他</p> <p>「市内全域の給食で有機米の利用を進める」</p> <p>→市内全域での有機米と有機野菜の利用を進める</p> <p>有機野菜の農家さんをごっさりさせないように必ず追記してください。</p>	<p>ご意見の趣旨を踏まえ、「市内全域の給食で有機農産物の利用を進める」と修正いたします。</p>	有
7	<p>有機農業者の拡大</p> <p>新規就農者とすでに有機農業を実践している農業者とのマッチング機会を定期的に設ける。新規に農業を志したいと考えている人を有機農業者研修生として受け入れる体制を構築すること。</p>	<p>個別具体的な内容であるため、貴重なご意見として、今後の有機農業推進施策への参考とさせていただきます。</p>	無

8	有機農業者への支援 有機堆肥の無償提供公園緑地課のチップと米ぬか食物残渣等を活用した堆肥を無償で有機農業者へ配布する。	個別具体的な内容であるため、貴重なご意見として、今後の有機農業推進施策への参考とさせていただきます。	無
9	有機農業者への支援 食物残渣を通じた食育	個別具体的な内容であるため、貴重なご意見として、今後の有機農業推進施策への参考とさせていただきます。	無
10	有機農業者への支援 固定種の種・苗の購入支援・情報提供	個別具体的な内容であるため、貴重なご意見として、今後の有機農業推進施策への参考とさせていただきます。	無
11	有機農業者への支援 農地と農家住宅情報の提供	P18記載のとおり、引き続き情報提供に努めてまいります。	無
12	有機農業者の定期的な勉強会の開催 知識と技術の取得機会 (定期的に開催する)	個別具体的な内容であるため、貴重なご意見として、今後の有機農業推進施策への参考とさせていただきます。	無
13	有機農業者の定期的な勉強会の開催 定期的に農業者の圃場巡回訪問を行う。	個別具体的な内容であるため、貴重なご意見として、今後の有機農業推進施策への参考とさせていただきます。	無
14	特定露地野菜の栽培 佐倉ならではの野菜の栽培	個別具体的な内容であるため、貴重なご意見として、今後の有機農業推進施策への参考とさせていただきます。	無
15	道の駅のような直売所のような施設を設ける。 野菜の販売、佐倉農産物の食堂 ソフトクリーム・味噌・人参ジュース・ブルーベリージャム・トマトジュース 豚肉生姜焼き・BBQ	個別具体的な内容であるため、貴重なご意見として、今後の有機農業推進施策への参考とさせていただきます。	無
16	販路 JA千葉みらいと連携して有機野菜集配市場だし等	個別具体的な内容であるため、貴重なご意見として、今後の有機農業推進施策への参考とさせていただきます。	無

17	3の有機農業の定義の項目ですが、有機JAS認定を受けずとも定義の基準を満たす場合は有機農産物と認められるのですか？	有機農産物と表示はできませんが、佐倉市内の加工、流通、販売においては、有機農産物と同等の取扱いができるような体制づくりを検討してまいります。	無
18	佐倉には佐倉味噌やお酒など、佐倉の名のついた商品がありますが、その主原料となる大豆やお米を、佐倉の無農薬野菜を使用してもらい、名前だけでなく、中身も地産地消で、ブランド価値を高め、市民の意識向上や、佐倉という市の誇りとなって行くと思います。 そういった佐倉ブランドをドンドン作って、農作物、工業、市場、消費が循環するようにしてください。	個別具体的な内容であるため、貴重なご意見として、今後の有機農業推進施策への参考とさせていただきます。	無
19	P7 【消費者側】課題の追加 ：慣行農法の作物に比べ、割高になることへの理解	P6に「有機農産物が慣行的に行われている栽培による農産物より割高であることから、」と記載のとおり課題のひとつとして認識しております。	無
20	P12 3目標達成に向けた取組内容 ：複数の就農者で収量を合わせて、業者に輸送を委託し、給食に提供するマッチングアプリの導入	個別具体的な内容であるため、貴重なご意見として、今後の有機農業推進施策への参考とさせていただきます。	無
21	P13 追加希望 ：支援内容に、技術を持ったサポーター（農業を辞めた方、有識の市民）派遣のシステムを構築	個別具体的な内容であるため、貴重なご意見として、今後の有機農業推進施策への参考とさせていただきます。	無
22	P13 追加希望 ：耕作地近くにトイレを建てる助成金を確保	個別具体的な内容であるため、貴重なご意見として、今後の有機農業推進施策への参考とさせていただきます。	無

23	<p>P21 追加希望</p> <p>現時点での発注システムの見直し。FAX利用から、アプリやメールでのやり取りへの移行</p>	<p>個別具体的な内容であるため、貴重なご意見として、今後の有機農業推進施策への参考とさせていただきます。</p>	無
24	<p>P21 追加希望</p> <p>新規就農者だけではなく全就農者への情報共有の徹底</p>	<p>広報紙やホームページ等を活用して、農業者への情報の共有に向けて努めてまいります。</p>	無
25	<p>P 2 7 アンケート方式</p> <p>SNSを活用してインターネット上でアンケートを行うほうが若い方の返答が得られやすいのではないかと</p>	<p>今後の有機農業推進施策へのアンケートを行う際の参考とさせていただきます。</p>	無
26	<p>イベントの一般への告知がぎりぎりすぎるので、せめて2～3週間前にしてほしい。あまりにぎりぎりなので、実は参加してほしいのではないかと疑ってしまいます。せっかくご尽力いただいて企画実施されているイベントがもったいないと思います。</p> <p>どうかよろしく願いいたします。</p>	<p>イベント等の周知につきましては、適切な時期の周知に努めてまいります。</p>	無

27	<p>計画の内容について異議はありません。</p> <p>気になった点は、成果目標と関連目標の低さです。</p> <p>成果目標 2 令和 9 年(2027 年)有機農業に取り組む面積 (芋類・露地野菜) の増加 2 ha (25.8ha)</p> <p>関連目標 2 令和 9 年(2027 年)有機農業に取り組む面積 (米) の増加 3.4ha (6.8ha)</p> <p>みどりの食料システム戦略では 2050 年に農地の 25%を有機にと掲げています。</p> <p>令和 1 年の佐倉市の農地面積の 25%を有機にするには 2050 年は次のとおり</p> <p>畑 1140ha → 2050 年 285ha</p> <p>田 1720ha → 2050 年 430ha</p> <p>令和 9 年の目標値は、せめて 2025 年の 1 割くらいに設定しても良いのではないのでしょうか。</p> <p>畑 28ha</p> <p>米 43ha</p>	<p>成果目標及び関連目標の面積につきましては、直ちに増加するものではなく、栽培技術の定着・向上や技術開発などの進展に伴い、増加率が増す想定しており、現在の数値目標としております。なお、当初の目標を前倒しして達成することによって、地域の取組への意欲が増すことも想定し、まずは、確実に達成可能な範囲での設定としたものです。</p>	無
28	<p>抽象的な表現が多くより詳細な読み手の解像度が鮮明になるような文脈を願いたい。 〔自然循環機能、多目的機能、病虫害など〕</p>	<p>実施計画は市の全体的な方針を示すものであるため、そのような表現としております。</p>	無

29	<p>慣行栽培と有機農業の差別化について、より良い環境へ寄り添った自然栽培方法が存在します。現在JAS認定の有機農法と自然栽培方法の比較・違い、内容も詳細にし、これから本来の自然へ寄り添った農業を志す方々への大切な材料として提示していく事を願いたい。</p>	<p>個別具体的な内容であるため、貴重なご意見として、今後の有機農業推進施策への参考とさせていただきます。</p>	無
30	<p>「競争力ある農林水産業」とは何と何を競い争わせたいのか疑問しか見えてこない文面です、長年競争させてきた成れの果てが現状と認識されていないのかと想起させ行政へ関わる方々への信頼を損ねかねない文は用いるべきではないと考えます。</p>	<p>実施計画の位置付けとして、上位計画である第2次佐倉市産業振興ビジョン（令和2年3月）の基本方針を引用したものであります。</p>	無
31	<p>農地法や農へ関する法や調和、倫理、秩序へ関心を持たない営農者が存在するのも現実です、計画案の文脈で捉え方次第では不道德へと繋がる営農方法を尊重する事となるのでより繊細に明瞭に記述することを願いたい。</p> <p>【2有機農業に関する技術的な支援】につて耕畜連携、土作り等々環境をより悪化させる工程は農薬なしでの栽培方法では収量激減を発生させます。調和の保てるより透明度の高い情報共有・開示を盛り込む事を願いたい。</p>	<p>個別具体的な内容であるため、貴重なご意見として、今後の有機農業推進施策への参考とさせていただきます。</p>	無
32	<p>現状ではSDGsを流行りの過ぎた言葉にするほどの風土を活かした日本独自の農法を取り組む団体、個人も多く見受けられます、その様なより良い形態も計画案書へ盛り込んで進めていく事を願いたい。</p>	<p>個別具体的な内容であるため、貴重なご意見として、今後の有機農業推進施策への参考とさせていただきます。</p>	無

33	<p>増やす有機農業者の数が少なすぎる。20年3月、第3次の有機農業の推進に関する基本的な方針が公布され、国内における有機農業の取組面積を、2018年の約2万3700ha（耕地面積の約0・5％）から2030年には6万3000haと倍増以上の数値目標を掲げた。優先的に助成金を受けられるモデルとしてのオーガニックビレッジとしてはもっと多くする必要はある。</p>	<p>成果目標及び関連目標の面積等につきましては、直ちに増加するものではなく、栽培技術の定着・向上や技術開発などの進展に伴い、増加率が増す想定しており、現在の数値目標としております。なお、当初の目標を前倒しして達成することによって、地域の取組への意欲が増すことも想定し、まずは、確実に達成可能な範囲での設定としたものです。</p>	無
34	<p>計画にもあるが環境直接支払いを受ける有機農業者を増やす必要がある。直接支払いを知らない有機農業者もいるのではないか。以前に比べて書式、手続きが簡単になっている。有機農業者あるいはこれから有機農業を始めたい農業者を集めて直接支払いの内容、書類の書き方、手続きなどについての説明会すべき。</p>	<p>引き続き制度の周知に努めてまいります。</p>	無
35	<p>販売先が学校給食に重点が置かれているように見える。スーパーや直売場など一般市場やレストランなど外食産業でも販売できるように進めることも重要である。有機農業は直接消費者と結びつく提携によって発展してきたが、今は不特定多数に販売する時代になってきた。その場合、慣行栽培の農産物と区別するためには有機JASは一定程度の有効性はあるので、有機JASとはどういうものなのか、手続きはどうすればいいかなど内容を説明する講習会を開催すべきであるし、想定している取得人数も少なすぎる。</p>	<p>P19に記載しておりますが、有機JAS認証取得を推進してまいります。</p>	無

36	<p>現在市内には有機農業者が約50人いるとあるが、早急にネットワークを組織化すべきである。それぞれが技術的問題や販売先など話し合いを持つことで有機農業が拡大する可能性は高い。その場合米生産者と野菜生産者を分けるべきではない。作っている作物は違うが有機農業を進めようとする考え方は同様である。米と野菜を作っている有機農業者はどちらにも参加しなければならない。</p>	<p>P15に記載しておりますとおり、農業者ネットワークの構築を進めてまいります。</p>	無
37	<p>広報がまずい。さつまいもの技術研修会に参加したが、開催直前になっての連絡で、これでは参加者が少なくなってしまう。各種事業の開催の最低でも1か月前で、より多くの人に広報すべき。</p> <p>また、大々的に『オーニックビレッジ宣言』し、多くの市民に佐倉はオーガニックの町であると認知してもらう必要もある。</p>	<p>イベント等の周知につきましては、適切な時期の周知に努めてまいります。</p>	無
38	<p>研修会は作物ごとに行うということだが、有機農業では土作りが最も重要であり、まずは土作りやローテーションや品種の選定などの総論から研修会を開くべきである。さつまいもは肥料をやりすぎるとつるボケする有機栽培では特殊作物であり、最初に開催する品目としては適切ではない。</p>	<p>個別具体的な内容であるため、貴重なご意見として、今後の有機農業推進施策への参考とさせていただきます。</p>	無

39	<p>この計画は5年間で予定しているが、その都度（毎年）計画が実施されているが確認していることが重要である。確実に計画が実施されていないとすれば、どこに問題があるのか、明らかにし、対策を講ずる必要がある。</p>	<p>P14推進体制に記載のとおり、目標の達成状況等の評価を毎年行うこととしております。</p>	無
40	<p>佐倉市有機農業実施計画の策定趣旨からは市全体の有機農業のまちづくり戦略が伝わってこない。オーガニックビレッジ宣言、有機農業の位置づけ、学校給食に有機農産物を取り入れるだけではないはずで、市民（人々）を巻き込んだ「オーガニックシティ」の確立をめざしてほしいです。</p> <p>そのためにも計画期間、5年間の間にオーガニックなまちづくり条例を策定すべきです。地域社会を構成する多様な主体が一体となり、佐倉市を、人と自然が調和した持続可能なまちとして、次世代に継承しようとする取り組みが必要です。</p>	<p>個別具体的な内容であるため、貴重なご意見として、今後の有機農業推進施策への参考とさせていただきます。</p>	無

41	<p>佐倉市オーガニック推進部会は公開会議としてください。</p> <p>有機農業、有機農産物等は、市民の注目度も高く関心も高まっています。又内容も知りたいと思います。市民の理解をより深めるためにも、会議を非公開とする理由はないと思います。現在のオーガニックビレッジ検討部会での、委員それぞれの立場からきたんのない意見を発信してほしいからと、市民の傍聴を排除することは市民の理解は得られません</p> <p>会議で様々な意見のもと、議論があり、活発な会議へと発展することと思います。</p> <p>市民が傍聴することで得られる知識は大きいです。会議を公開することで自由な意見を言えない委員では困ります。</p>	<p>部会については、委員のそれぞれの立場から忌憚ない意見を発言していただきたいことから、引き続き非公開といたしますが、会議の概要等につきましてはホームページで今後も公開してまいります。</p>	無
----	---	---	---